

大雨・台風が近づいたら、防災情報を確認

市町村からの情報は、テレビ、ラジオ、インターネットなどから入手しましょう。

町公式LINE・メール



福島県防災アプリ



Yahoo! 防災速報



キキクル



NHKのdボタン

NHKをつけて、リモコンの「d（データ放送）」ボタンを押すと、気象情報などを確認することができます。

防災気象情報と避難情報

防災気象情報（気象庁が発令）				避難情報（市町村が発令）
	大雨	土砂災害	住民がとるべき行動	
警戒レベル5相当	レベル5大雨特別警報	レベル5土砂災害特別警報	命の危険直ちに安全確保	緊急安全確保
避難する場合は「レベル4までの間に！」				
警戒レベル4相当	レベル4大雨危険警報	レベル4土砂災害危険警報	危険な場所から全員避難	避難指示
警戒レベル3相当	レベル3大雨警報	レベル3土砂災害警報	危険な場所から高齢者などは避難	高齢者等避難
警戒レベル2	レベル2大雨注意報	レベル2土砂災害注意報	自らの避難行動を確認する	 気象庁
警戒レベル1	早期注意情報		災害への心構えを高める	

警戒レベル4までに避難

5月29日から、防災気象情報が新しくなりました。警報・注意報などに「警戒レベル」の数字が付くことで、市町村が発令する避難情報との関係が分かりやすくなっています。現在の「警戒レベル」を確認し、数字に応じて、取るべき避難行動を判断しましょう。

レベル5大雨特別警報が発表されたときの車運転の注意点

浸水が懸念されるときは、車での移動を控えてください。冠水した道路への進入は、命に関わる危険があります。車はわずか30cm程度の浸水でも走行不能になる場合があります。安全を最優先に行動しましょう。

水深が床面を超えると、電気装置が損傷し、自動スライドドアやパワーウィンドウが動作しなくなるおそれ

脱出用ハンマーで割れる（合わせガラスは割れない）

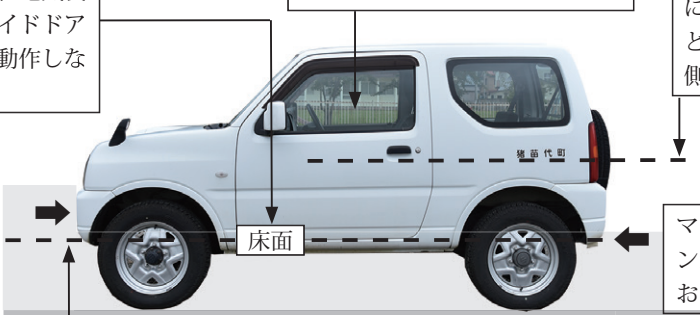
水深がドアの下端にかかると、車外の水圧により、内側からドアを開けることが困難となり、ドアの高さの半分を超えると、内側からほぼ開けられなくなるおそれ

吸気口から浸水するとエンジンが停止し、再始動しなくなるおそれ（速度が大きいと浸水しやすくなる）

水流がある場合、車両が流されるおそれ

タイヤが完全に水没すると、車体が浮いて移動が困難になるおそれ

マフラーから浸水するとエンジンが停止し、再始動しなくなるおそれ



※駐車中に浸水した場合は、水が引いた後もエンジンを始動せず、点検を依頼しましょう。

内閣府「レベル5大雨特別警報が発表されたときの車運転の注意点」を編集して作成

風水害から命を守るために
早めの「備え」と「避難」を



大雨で起こる災害を知っていますか？

7月30日、猪苗代町では激しい雨の影響で避難指示が出され、町農村環境改善センターには最大で22世帯、30人が避難しました。また、床上浸水1件、床下浸水4件のほか、町道や林道の冠水などの被害も発生しました。



猪苗代駅前の旧会津バスセンター付近が冠水

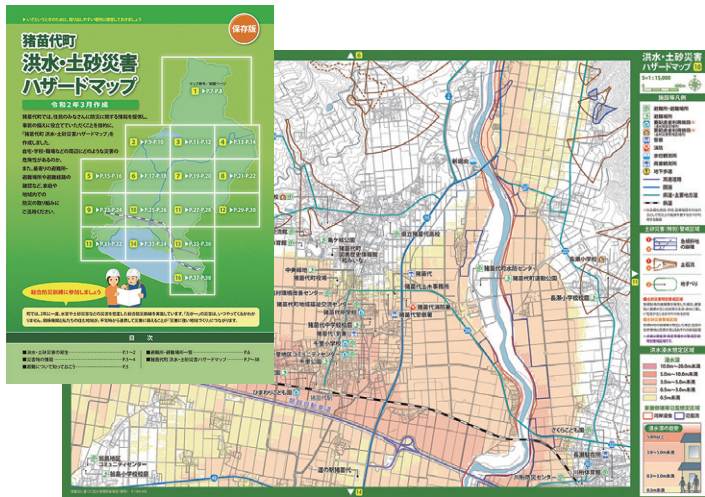
このように、大雨が降ると、河川の増水や氾濫、道路や住宅地の浸水、土砂災害など、さまざまな災害が発生するおそれがあります。こうした災害から身を守るためには、日ごろから自宅周辺の災害リスクを把握し、早めに避難できるよう備えておくことが大切です。

町では、洪水や土砂災害の危険箇所などを確認できる「猪苗代町洪水・土砂災害ハザードマップ」を公開しています。また、長瀬川、酸川、観音寺川など、町内を流れる10河川について、想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域が公表されています。

「自分の家は大丈夫」と思わず、まずはハザードマップなどで自宅周辺の災害リスクを確認し、いざというときの避難先や避難経路についても確認しておきましょう。

あなたの住んでいる地域は大丈夫？
ハザードマップで確認しましょう

ハザードマップや洪水浸水想定区域はQRコードから



※本年度中に、水防に関する情報を一冊にまとめたハザードマップに改訂し、全世帯に配付する予定です。

災害時の避難先は、あらかじめ家族で決めておきましょう。指定された避難所だけでなく、安全な場所にある親戚や知人宅への避難など、状況に応じた避難先を考えておくことも大切です。

また、避難経路は実際に歩いて確認し、川や水路、急な斜面など、危険な場所を避けられる経路を考えておきましょう。

「避難＝避難所」ではありません。避難とは、災害の危険から身を守るために安全な場所へ移動することです。自宅が安全な場所にあり、浸水や土砂災害の危険がない場合などは、自宅で安全を確保することも避難行動の一つです。また、浸水のおそれがある場合には、建物の上階など、より高い場所へ移動する「垂直避難」が有効な場合もあります。

大切なのは、自分の住んでいる場所の危険性を知り、災害の状況に応じて安全な行動をとることです。